

## PROFILE 会社概要

商号	株式会社アテクト
創業	1959年10月10日
設立	1969年4月23日
資本金	822,266千円(2026年3月31日現在)
本社所在地	滋賀県東近江市上羽田町3275番地1 Tel:0748-20-3400 Fax:0748-20-3401
従業員数(連結)	125 [39]名 (2026年3月31日現在) [ ]内はパートおよび派遣労働者の人員を外数で記載

## MEMO 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間
基準日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
期末配当金	毎年3月31日(中間配当金を実施するときは9月30日)
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 ☎ 0120-094-777

## INFORMATION ご案内

- 株主総会資料の電子提供  
株主総会資料を電子提供しています。
- 動画を掲載中  
「3分でわかるアテクト」などにより、各事業を広く知っていただく情報をご案内しています。  
<https://www.atect.co.jp/>
- アテクトSDGs宣言  
社会に貢献できる製品づくりを通じ企業と社会の持続可能な発展を目指します。  
<https://www.atect.co.jp/sdgs/>



[https://www.atect.co.jp/ir/financialInfo/ir\\_memo/](https://www.atect.co.jp/ir/financialInfo/ir_memo/)

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

公告方法 電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。  
公告掲載URL <https://www.atect.co.jp/ir/corporate/>

上場証券取引所 東京証券取引所(スタンダード市場)

## TOPICS 中期経営計画 VISON30S を策定しました

売上高50億円・営業利益5億円・営業利益率10%を目指してまいります。

中期経営計画 VISON30S	
2030年度経営目標	
連結売上高	50億円
連結営業利益	5億円
連結営業利益率	10%

## 基本経営方針

## 1. 衛生検査器材事業

売上30億円(海外売上3億円)

## 2. 半導体資材事業

売上15億円

## 3. PIM事業

売上5億円

## 4. 経営管理本部

経営体質強化の実現

## 5. 業務ソリューション

自前化



## PRESIDENT MESSAGE

新たに策定した中期経営計画  
VISON30S をもとに成長へ

代表取締役社長

大西 誠



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご愛顧を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

当連結会計年度の業績は、原材料・エネルギーコストの高止まりなど事業環境は厳しい状況で推移しましたが、前期比で増収増益となりました。半導体資材事業においては第3四半期連結会計期間以降、液晶パネル需要が回復し、前期比で増収となりました。衛生検査器材事業においては外食産業の伸長がみられるとともに、内食・デリバリー及びテイクアウト需要についても堅調に推移し、売上高は過去最高を更新しました。PIM事業においても自動車用ターボ部品及び高機能部品の受注が安定的に継続したことにより、売上高は過去最高を更新しております。

利益面では、高騰が続く原材料費の影響については、衛生検査器材事業のシャーレ主原料であるPS(ポリスチレン)材は前期までの値上がり落ち着きましたが、半導体資材事業のスペーサーテープの主原料であるPETフィルムは高止まりが続いたほか、原価は上昇圧力を受けており、引き続き利益圧迫要因と

なりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高3,357百万円(前期比4.9%増)、営業利益204百万円(前期比154.0%増)、経常利益209百万円(前期比223.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益141百万円(前期比252.4%増)となっております。

今後の見通しについては、特に中東情勢の動向や業績への影響を注視しつつ着実な成長を継続し、次期連結会計年度(2027年3月期)の連結売上高3,600百万円、営業利益210百万円、経常利益200百万円、親会社株主に帰属する当期純利益120百万円と見込んでおります。

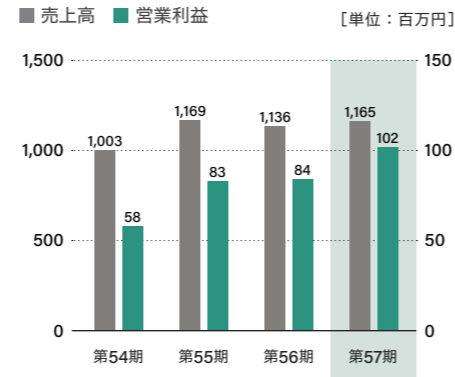
新たに策定した中期経営計画VISON30Sにおいて、3大事業の売上拡大と利益体質の向上を推進しつつ、2030年の経営目標として、連結売上高 5,000百万円、連結営業利益500百万円を掲げ、一層の成長戦略にまい進してまいります。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 半導体資材事業 | 液晶パネル需要が回復し増収増益 |

当事業においては、当第4四半期連結会計期間での販売数量が1,934万mと好調に推移し、当連結会計年度累計での販売数量は6,653万mとなりました。

一方で円安やエネルギーコストの上昇などが利益圧迫要因となったため、生産効率改善やコストパフォーマンスの高いスペーサーテープの開発活動を含む原価低減に注力してまいります。また急な市場動向の変動に備え、日韓二拠点の生産体制、人員配置の最適化も進めてまいります。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は1,165百万円(前期比2.6%増)、営業利益102百万円(前期比21.3%増)となりました。

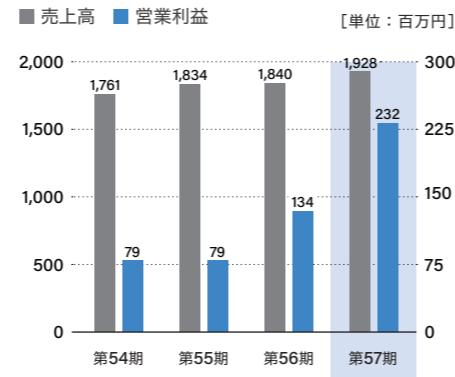


## 衛生検査器材事業 | 売上高は過去最高を更新 |

当事業においては、インバウンド需要を含め外食産業向けの販売が堅調に推移したとともに、主要顧客への更なる販売促進活動、新製品提案、新規取引先開拓活動等により、売上高は過去最高となりました。

しかしながら、原料高騰や資材不足が懸念されたことに伴う先取りとみられる受注も多く、売上上に一定の影響を与えていると考えており、引き続き市場の動向を注視してまいります。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は1,928百万円(前期比4.8%増)、営業利益232百万円(前期比72.5%増)となりました。

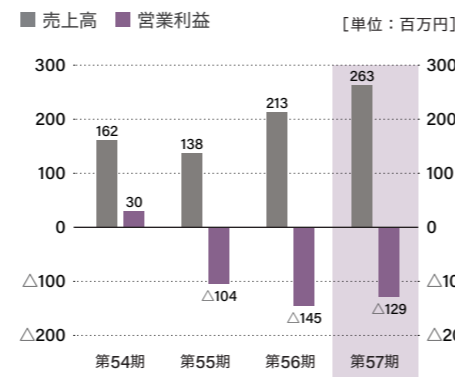


## PIM事業 | 売上高は過去最高、収益性改善が課題 |

当事業においては、主力製品である自動車用ターボ部品や、CMOSセンサー用セラミックス部品などの受注が堅調に推移し、売上高は過去最高となりました。

一方で、歩留まり向上・原価低減・生産効率化への取り組みが着実に改善しておりますが、未だ道半ばであります。引き続き改善活動の習慣化を全工程に根付かせることを重点課題として推進し、黒字化に向けた基盤の強化を図ってまいります。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は263百万円(前期比23.3%増)、営業損失129百万円(前期は営業損失145百万円)となりました。



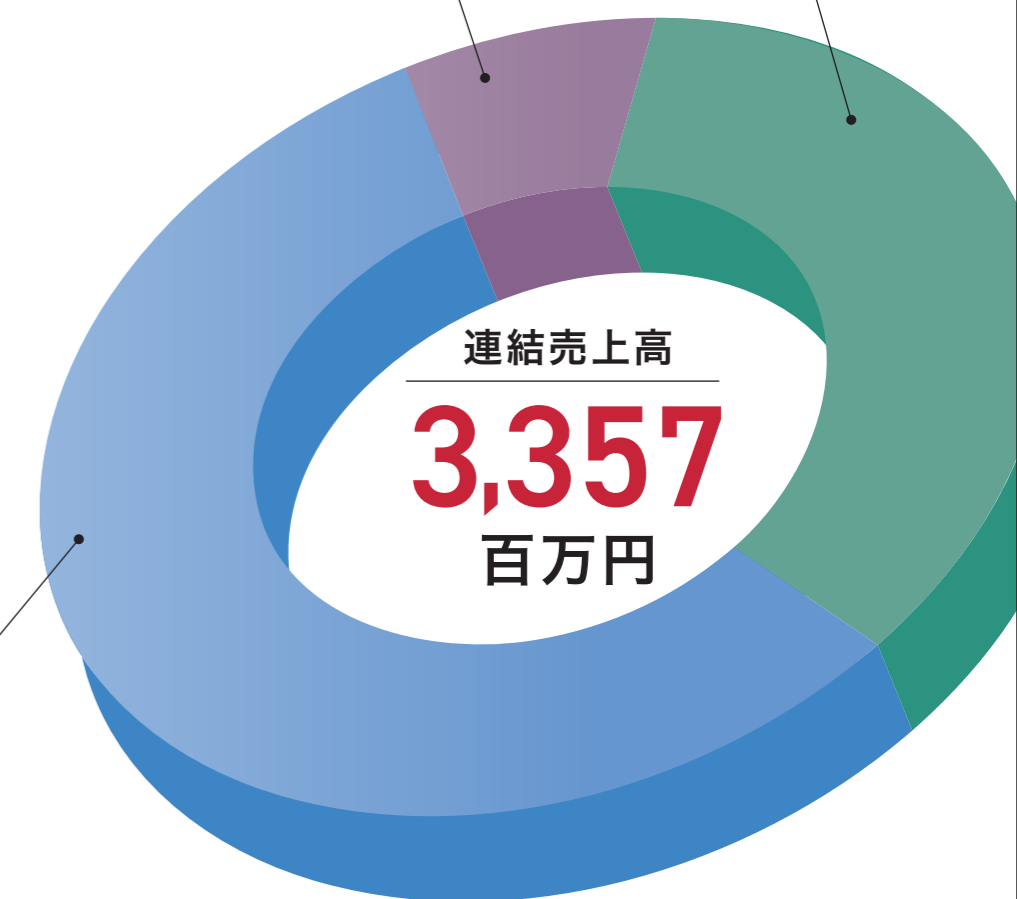
## PICK UP

全3事業において増収  
衛生検査器材事業と  
PIM事業の売上高は  
過去最高

PIM事業  
7.8%

半導体資材事業  
34.7%

衛生検査器材事業  
57.4%



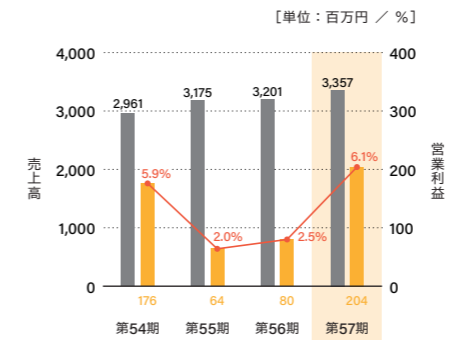
## HIGHLIGHTS 業績ハイライト

### 売上高/営業利益/営業利益率

■ 売上高  
■ 営業利益  
→ 営業利益率

売上高:  
全3事業において増収

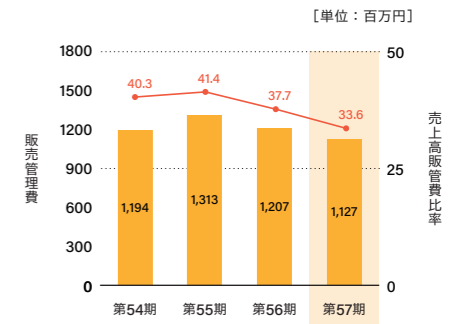
営業利益:  
売上総利益の増加と販管費の減少で154.0%の増益



### 販売管理費

■ 販売管理費  
→ 売上高販管費比率

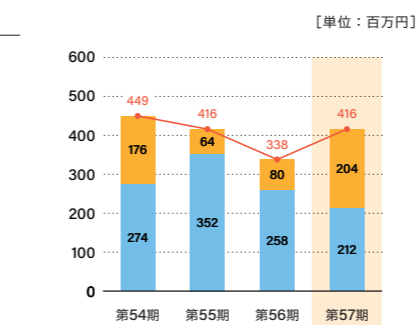
減価償却費や採用コストの減少、業務効率改善による残業費用の減少等により販管費は減少



### EBITDA

■ 減価償却  
■ 営業利益  
→ EBITDA

営業利益の増加によりEBITDAは2期ぶりの水準に回復



### 財務健全化

2017年の滋賀本社工場移転投資以降、自己資本比率は着実に上昇

